視察報告

「一度は廃止が決定」⇒「市民運動で存続」となった

福岡県 ももちパレスへ視察

４月２４日、市議団と産業文化会館の存続を求める会は、８００席の中規模ホールを有する福岡県の「ももちパレス（1973 年建設：名誉館長は栗原小巻さん）」を視察し、聞き取りを行いました。ももちパレスは、県の行財政改革のもと、一度は廃止が決定。しかし、「文化活動にとってかけがえのない施設であり、存続してほしい」との市民の声が広がり、市民運動により存続が決定した施設です。

年間40万人が利用～文化を育む重要な役割

ホールは、８００席（固定席）の中規模ホールであり、演者と客席との距離や音の響きなど、大規模ホールとは違った特長をもち、演劇やバレー、クラシックコンサートなど多彩な文化活動が展開されていました。またステージの奥行きや舞台そでも広く、演者からも大変好評とのことでした。

年間４０万人もの利用者があり、市民の文化醸成に大切な役割を果たしています。

「廃止」から「存続」の決め手は市民世論の力

ももちパレスの前身は、「勤労青少年文化センター」という勤労者の余暇やスポーツを楽しむための施設でした。県の行財政改革のもとで福岡県は「廃止」の方針を決定しました。

しかし、文化活動を育むホールを残してほしいと、市民が存続を求め立ち上がります。また、役者など演者も、中規模ホールでしか果たせない重要な役割があると署名や県への要請に参加。俳優の仲代達矢さんや女優の栗原小巻さんも市民とともに知事への要請に参加しました。

その後、「ももちパレスの存続を！」との声は大きな市民世論となり、県は廃止を撤回、存続が決定しました。７０年は大切に使えるようにと５億円をかけて耐震改修や電気設備の改修が行われる予定です。

築後３２年の産文会館の解体を決定した熊本市。福岡の教訓を生かし、存続の声を大きく広げていくことこそ大切だと感じた視察でした。

（控室から）

憲法が暮らしに生かされることこそ

なすまどか

5月3日は憲法記念日。施行66年目を迎えることになります。

そもそも憲法は、国が国民に対して果たすべき義務を明記したものであり、私も含め政治に携わる者にとっては、常に立ち返るべき原則です。

では、今の社会や国の在り方が、憲法が定めた原則に沿ったものになっているのでしょうか？

生存権が保障されているにもかかわらず、仕事や収入を失ったことによる餓死などの貧困死は後を絶ちません。自殺者も、毎年3万人前後を推移しています。

国際的なもめごとを解決する手段として武力の行使を放棄した憲法のもとでも、年間5兆円の軍事費のほか、多くの米軍基地が存在し、米国による他国への武力介入の出撃拠点となっています。

こうした憲法と現実との矛盾をどのように無くしていくのか？いま日本は二つの分岐点に立っています。

安倍政権の企てのように、国が果たすべき責務を放棄し、憲法そのものを変えていくのか？それとも、憲法を暮らしにいかす立場で、政治や社会を変えていくのか？

格差と貧困が大きな社会問題となる中で、また憲法9条が世界平和の大きな希望となる中で、憲法は古くなるどころかますます輝きを増しています。憲法が暮らしに生かされることこそ私たちの進むべき道です。

日本共産党　市議会だより
NO.８４７
2013年5月5日
発行：日本共産党熊本市議団
ますだ牧子　上野みえこ　なすまどか
電話　３２８－２６５６
FAX　３５９－５０４７
メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
熊本市中央区手取本町１－１　議会棟 ホーム:http://www.jcp-kumamoto.com/

あきらめないで、世論を広げ産業文化会館再開を!

「会場を押さえるのに、四苦八苦」
産文会館中規模ホールは貴重な財産

「産業文化会館を考える市民のつどい」が 4 月 27 日、市民会館大会議室で開催され約 100 人が集いました。オープニングは、熊本民謡研究会理事長の藤本忠寿と寿紫先生・生徒による民謡でスタート。中島熙八郎県立大学名誉教授をコーディネーターに、産業文化会館について論議。「諦めないで、世論を広げ、再開を実現しよう」との決意を固めあうつどいとなりました。

パネルディスカッションの様子

池田義一産業文化会館の再開を求める会代表：福岡県の築 40 年の「ももちパレス」は年 40 万人の利用者で、世論を喚起し、廃止をストップさせた。産文会館は築 32 年、30 万人で利用率も高い。広場や MICE 施設など市民の理解が得られていないものは、進めないで欲しい。

藤本寿紫先生：規模的にも丁度よく、産業文化会館ホールを何十回も使った。会場を押さえるのに、四苦八苦しており、再開を切に望んでいる。心から祈っている。

吉畑大次郎労音事務局長：落語の会で産文ホールを７５回使った。演じる人、聞き手にとっても、700 人のホールは良かった。

川辺川ダム建設反対運動 20 年の中島康さん：行政を動かすのは、世論しかない。市民の方々に興味を持ってもらうことが大切。絶対にあきらめてはいけない。住民討論集会は対等の立場で言い合い有効だ。

地下幸子障がい者・児の生活を豊かにする会副会長：37 歳の障がい者の息子が、入院を繰り返したとき、医療費の立替払いで大変だった。議会の度に、タクシー券とガソリン券との選択制と重度障がい者医療費の現物給付を陳情しているが、市は「お金がない」と言い実現していない。お金の使い方を考えて欲しい。

（市民のつどい参加者・アンケートの声から）
産業文化会館中規模ホールの大切さが分かった

＊吟詠家です。芸能文化のための会館が足りない。産文会館は、4 年間もストップしており、もったいない。憤りを感じている。

＊世界的なチェロリストからも、「ここのホールは音響がすばらしい」と絶賛された。

＊中規模ホールである産業文化会館の必要性をますます強く感じました。催しの度に、会場探しに苦労しています。市民の声が方向を決定的にすると聞きました。あらゆる機会にアピールしていきましょう。

藤本忠寿・寿紫先生と生徒さんによる民謡が華やかなオープニングを飾りました

＊パネラーの人達のお話を聞き、やはり産文会館が必要であることをすごく感じました。我々の大切な税金はムダに使って欲しくありません。市民運動が市民に分かるように訴えていかなければならないんだと思いました。

産業文化会館の取り壊しはもったいない!

＊産業文化会館を取り壊すことのもったいないことを感じております。使用できるものをなぜ大切にしないのか。市民の利益になる事がどうして深く考慮されないのか？

＊利用可能な物は大事に利用するのが道理である。諦めないで行動することが大切。公開討論会を絶対実現しよう。

＊産業文化会館は、利用する人にはすごく便利が良かった。

＊住民運動を大きくしていく事の重要性を感じた。